

Accuphase

PRECISION DIGITAL PROCESSOR

プレジジョン・デジタル・プロセッサー

DC-101 取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要な事項を記入の上、お早め(なるべく10日以内に)ご返送ください。お客様カードと引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

⚠マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

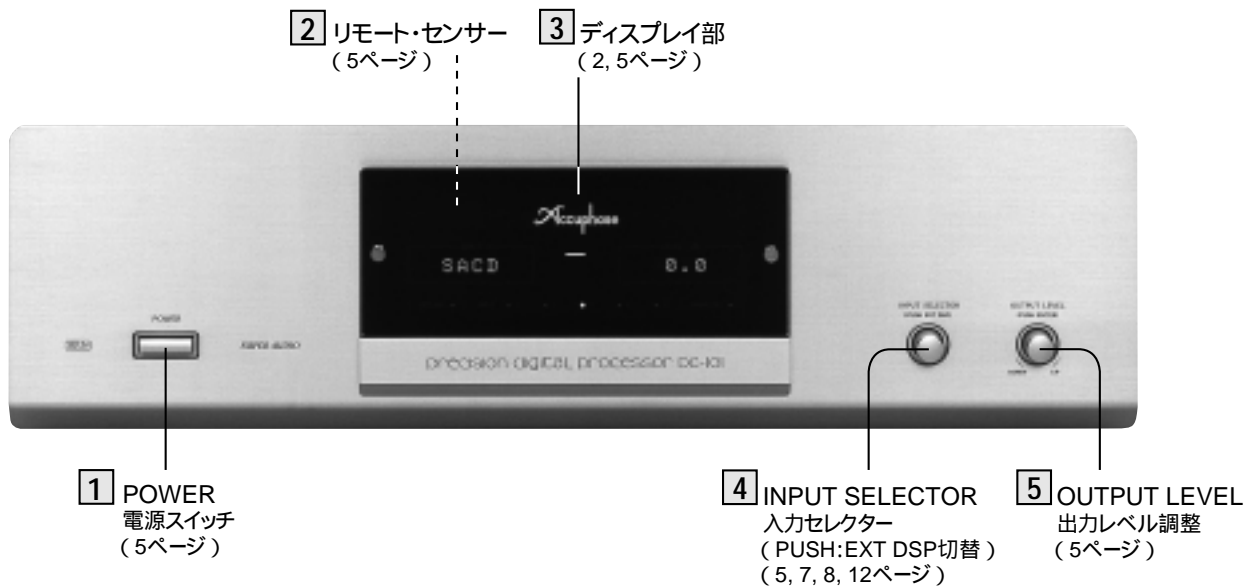
目次

1. 各部の名前	
フロントパネル、リアパネル	1
ディスプレイ部 / リモート・コマンダー / 付属品を確認します	2
2. ⚠警告 安全上必ずお守りください / ⚠注意	3
オプションボードの選択と接続上の注意	3
3. 接続図	4
4. 各部の動作説明	5, 6
5. ご使用方法	
入力ソースの選択	7
文字入力モードの切替	8
入力文字を変更するには	8, 9
変更した文字を初期設定に戻すには	9
6. 接続方法	
DP-100(SACD/CD)の演奏	10
CDなどをデジタル入力で演奏	11
DG-28のデジタル接続例: EXT DSPスロットの使用	12, 13
DG-28のアナログ接続例: 広帯域ソースを演奏	14
デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合	15
7. オプション・ボード	16 ~ 20
8. 保証特性	21
9. 特性グラフ	22
10. ブロック・ダイアグラム	23
11. 故障かな?と思われるときは	24
12. アフターサービスについて	25

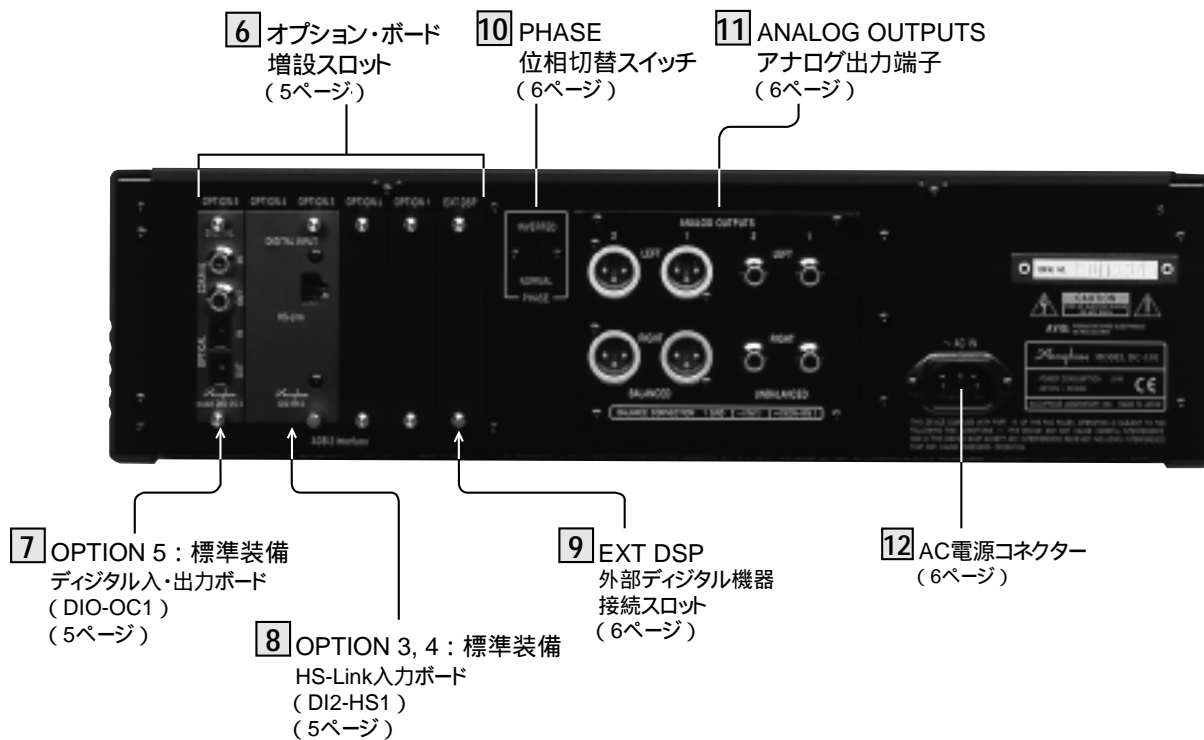
1. 各部の名前

詳しい説明は各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)

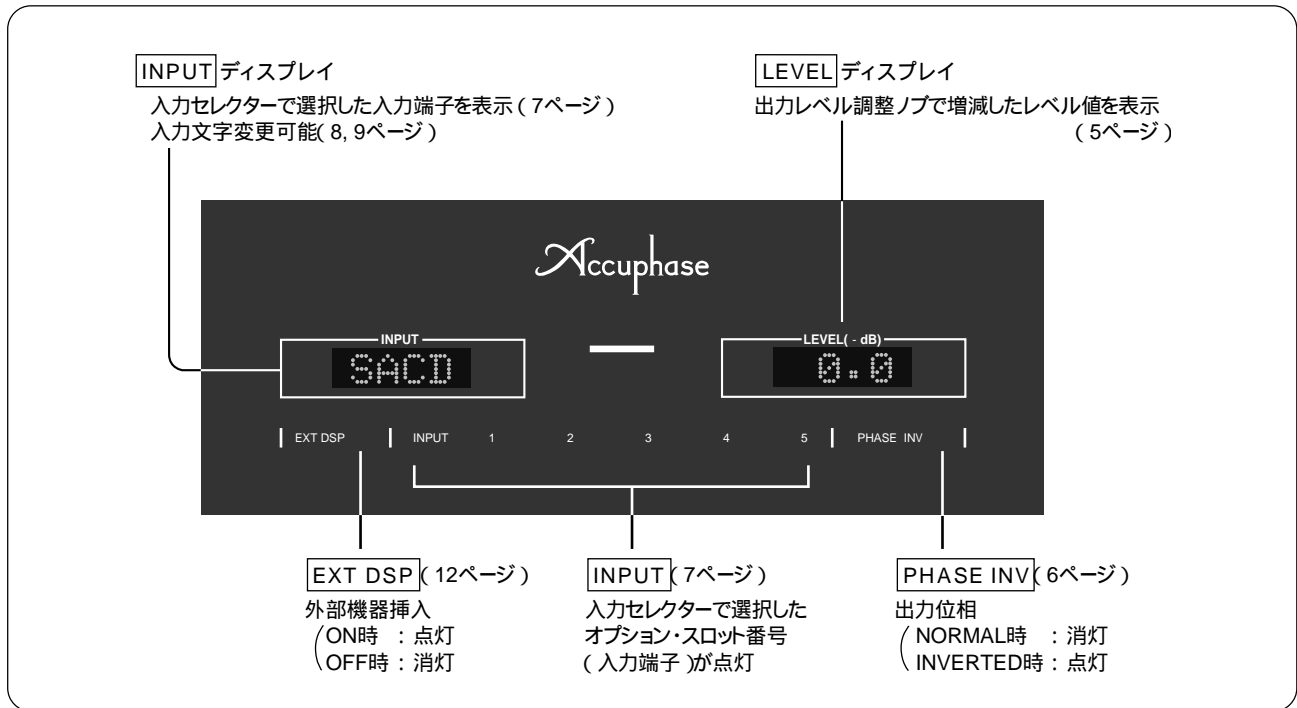


リアパネル(後面)



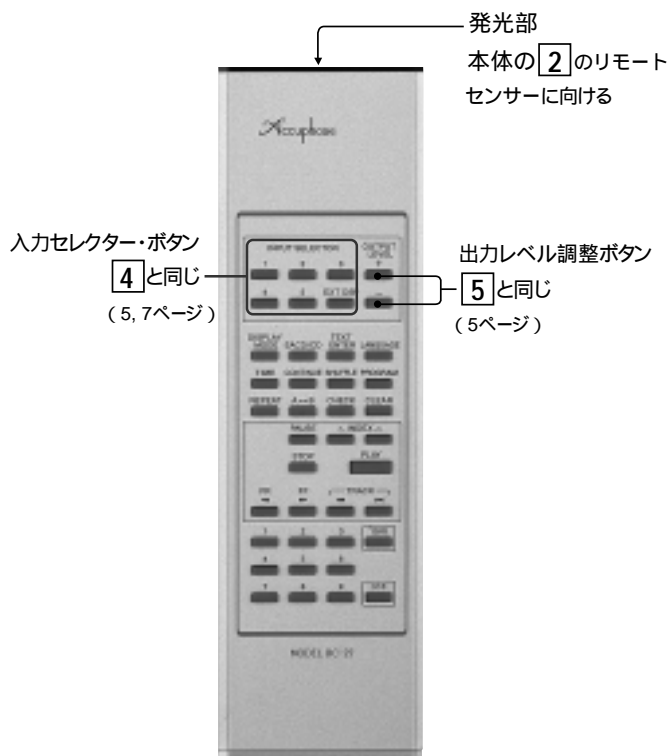
3 ディスプレイ部

イラストは説明用ですので、実際の表示とは異なります。



リモート・コマンダー RC-27

RC-27はDP-100に付属
DP-100の機能はDP-100の取扱説明書参照



付属品を確認します

- 取扱説明書 1冊
- 安全上のご注意 1冊
- お客様カード 1枚
- AC電源コード(2m) 1本
- プラグ付オーディオ・ケーブル(1m) 1組

ADB 2は、アキュフェーズ製品の オプション・ボード用インターフェース規格です

ADB 2: Accuphase Digital Bus 2
従来のサンプリング周波数に加えて、SACD/DVD-Audioなど48kHzを超えるハイサンプリング信号に対応したインターフェース規格

2. ⚠️ 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。
AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属の電源コード以外は絶対に使用しない。
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

“ヒューズの交換”など内部の作業はお客様直接はできません。必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨などや燃えやすい物)が入った場合。
故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
落としたり、破損した場合。

⚠️ 注意

設置場所について
必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
直射日光の当たる所、極端に寒い所
暖房器具の近くなど温度の高い所
振動や傾斜のある不安定な場所

チューナーやテレビ、ビデオデッキから離して設置してください。近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

他の機器と直接重ねて使用しないでください

入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実に行ってください

特に、RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしないでください。

オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってください

オプション・ボードの選択と接続上の注意

DC-101のデジタル入力/録音出力端子は、オプション・ボードで対応します。入力ソースに応じて、必要なボードを増設してください。HS-Linkで入力されたSACD/CD信号は、HS-Linkだけしか伝送できません。DP-100の演奏やデジタル録音、またDG-28を接続する場合には注意が必要です。

次のボードは標準装備されています。

HS-Link入力ボード : DI2-HS1
デジタル入・出力ボード : DIO-OC1

DC-330、DC-300、DP-75V、DG-28等に使用しているデジタル用オプション・ボードはそのまま使用することができます。(ボードの種類は12～19ページ参照)

SACD、DVD-Audioや96kHzソフトなど、ハイサンプリング・ソースの再生/録音については、この『取扱説明書』をお読みの上、用途に応じて適切なオプション・ボードを選択してください。

DP-100(SACD/CD)の演奏 10ページ
CDなどのデジタル再生 11ページ
DG-28を接続してSACDなど広帯域ソースを演奏
デジタル接続 12ページ
アナログ接続 14ページ
デジタル・レコーダーの録音/再生 15ページ

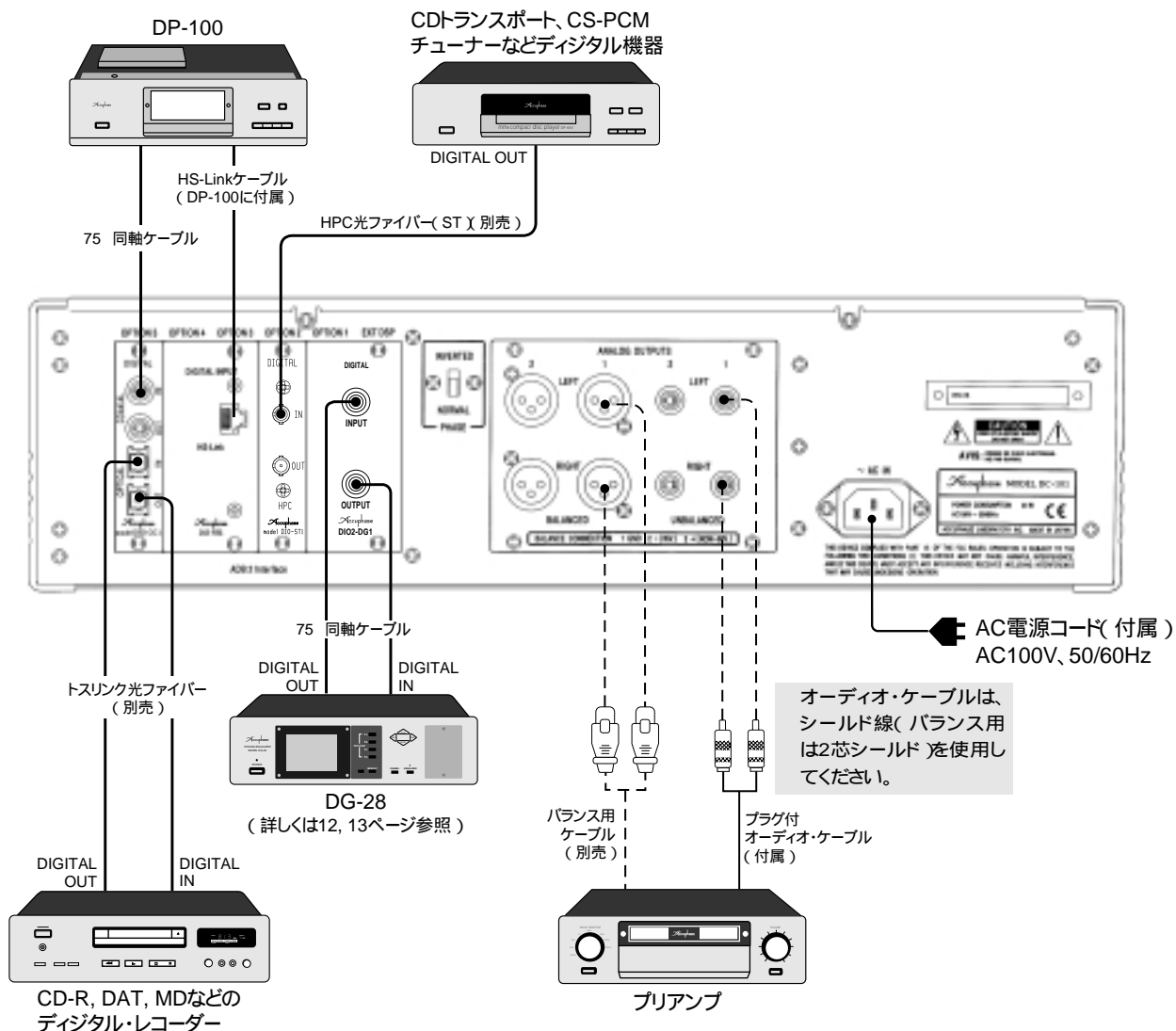
3. 接続図 イラストはオプションを増設した場合の接続例です。他の接続例については10～15ページ参照。

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を。

注意 DP-100の接続は、HS-Linkケーブル(SACD/CD)または75 同軸ケーブル(CDのみ)を使用します。
 DP-100のHS-Linkからの信号はデジタル録音できません。
 DP-100以外のデジタル機器との接続は、75 同軸ケーブル、トスリンク光ファイバー、HPC光ファイバーなどを使用します。
 アナログ入・出力の接続は、プラグ付オーディオ・ケーブルを使用し、LEFT(左) RIGHT(右)を正しくつないでください。
 アナログ出力のバランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

オプションの増設例(オプションの種類は16～19ページ参照)

- OPTION 5 : デジタル入・出力ボード(DIO-OC1) 標準装備
- OPTION 3, 4 : HS-Link入力ボード(DI2-HS1) 標準装備
- OPTION 2 : HPCオプティカル入・出力ボード(DIO-ST1) 別売
- EXT DSP : DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード(DIO2-DG1) 別売



4. 各部の動作説明

1 POWER - 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。

電源を入れてから回路が安定するまで約4秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

電源スイッチをOFFにしても、それまでに設定 / 変更された機能は記憶されます。

2 リモートセンサー

DP-100に付属しているリモート・コマンダーRC-27の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください

3 ディスプレイ部

INPUTディスプレイ

INPUT SELECTORで選択した入力ソース(端子)を表示します。

LEVELディスプレイ

OUTPUT LEVELでコントロールするレベルを数字で表示します。

LEDは、各ノブ、スイッチの動作ポジションなどを点灯表示

点 灯	操作するノブ、スイッチ	動 作 状 態
EXT DSP	INPUT SELECTORを押す	DG-28の接続ON
INPUT1~5	INPUT SELECTORをまわす	OPTION1~5に対応
PHASE INV	リアパネルのPHASEスイッチ	出力の位相が反転“ INVERTED ”

4 INPUT SELECTOR - 入力セクター

INPUT SELECTOR
(PUSH EXT DSP)



ノブを回してリアパネルのオプション・スロットに入力された信号を選択

(7ページ)

* DP-100に付属のリモート・コマンダーRC-27でも同様に選択することができます。

INPUT SELECTOR
(PUSH EXT DSP)



押す(2秒以下)

EXT DSP端子に接続されている機器の信号をON/OFF (12ページ)

押す(2秒以上押しつづける)

文字入力の編集モード (8, 9ページ)

5 OUTPUT LEVEL - 出力レベル調整

OUTPUT LEVEL
(PUSH ENTER)



右へ回すとアナログ出力レベルが増大し、左に回すと小さくなります。

Min 84.0 78.0 ... <=> ... 0.1 0.0

レベルは、LEVELディスプレイ上の数字(dB)で表示します。

通常は0.0で使用します。

出荷時は0.0になっています。

* 入力文字編集モードの場合は、OUTPUT LEVELノブを押すとENTER(確定)動作になります。(8, 9ページ)

リモート
コマンダー
RC-27

では



+ を押すとLEVELが増大

- を押すとLEVELが減少

6 OPTION1 ~ 5 - オプション・ボード増設スロット

デジタル入・出力関係のオプション・ボードを増設するスロットです。

ボードの種類と取り付け方法は16~20ページを参照。

7 OPTION 5 - 標準装備: デジタル入・出力ボードDIO-OC1

デジタル信号を同軸ケーブルや光ケーブルなどで入・出力することができます。

8 OPTION 3, 4 - 標準装備: HS-Link入力ボードDI2-HS1

DP-100を接続してSACDやCDを楽しむための入力端子です。

* 専用のHS-Linkケーブルで接続します。

* 著作権保護のため、HS-Link入力ボードに入力されたデジタル信号は、他のオプション・ボードの出力端子には出力されないため、デジタル録音はできません。

9 EXT DSP - 外部デジタル機器接続スロット

デジタル入・出力ボードを増設します。外部デジタル機器を接続すれば、INPUT SELECTORノブを押して、この機器の信号をON/OFFすることができます。

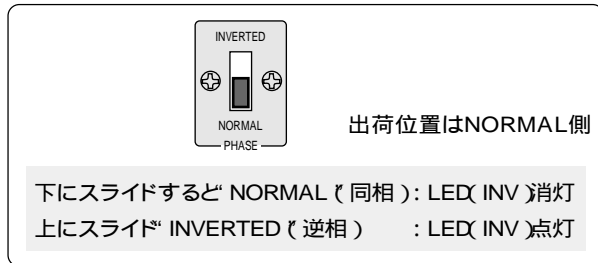
*DG-28を接続すれば、デジタル信号のまま、理想的な音場補正ができます。

*DG-28の接続方法は12, 13ページ参照

10 PHASE - 位相切替スイッチ

出力の位相を切り替えます。

規格に従って記録されたデジタル信号の正位相(NORMAL)に対して、逆相(INVERTED)の場合は、出力のオーディオ信号の位相が反転(180°)します。



逆相時のバランス出力コネクタの極性は、次のようになります。

- : グラウンド(変化しません)
- : インバート(-) ノン・インバート(+)
- : ノン・インバート(+) インバート(-)

11 ANALOG OUTPUTS - アナログ出力端子

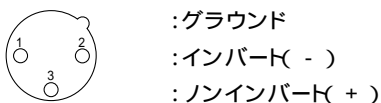
アナログ出力は、プリアンプの入力端子と接続します。

UNBALANCED 1,2 (不平衡出力) ジャック

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで接続します。

BALANCED 1,2 (平衡出力) コネクター

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクターです。アンプの入力コネクターがバランス入力を装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。ピンの極性は、次のようになっています。



バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

12 AC電源コネクター

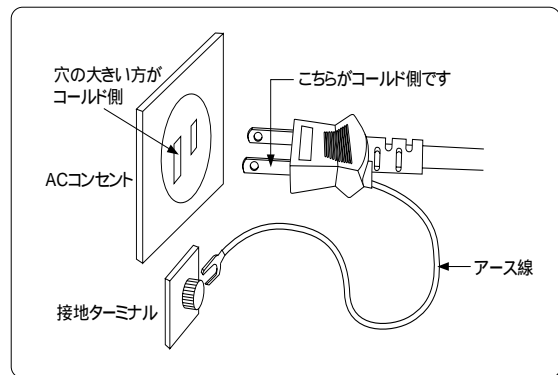
付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセント使用する。

電源コードに付いているアース線の接続
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



電源コードの極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。接続する機器の極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合がありますが、合わせなくても実用上問題にはなりません。

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を厳密に管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。

このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。



内部をあけると危険です。

電源が入らなくなった場合には、内部で異常が発生した可能性があります。電源コードを抜いて、必ず当社の品質保証部または当社製品取扱店へご連絡ください。

5. ご使用方法

使用される前に

- * POWERスイッチは、各機器とデジタル入・出力、アナログ出力のLEFT(左)/RIGHT(右)など、正しく接続されるまで入れないでください。
- * 本機の各機能の詳細は「各部の動作説明」を参照してください。
- * 接続する各機種の詳細な使用法は、それぞれの「取扱説明書」を参照してください。

入カソースの選択

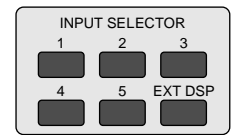
4 INPUT SELECTOR

INPUT SELECTORを回して、演奏ソースを選択します。選択するとLED(オプション・スロット番号)が点灯し、INPUTディスプレイに入力文字が表示されます。

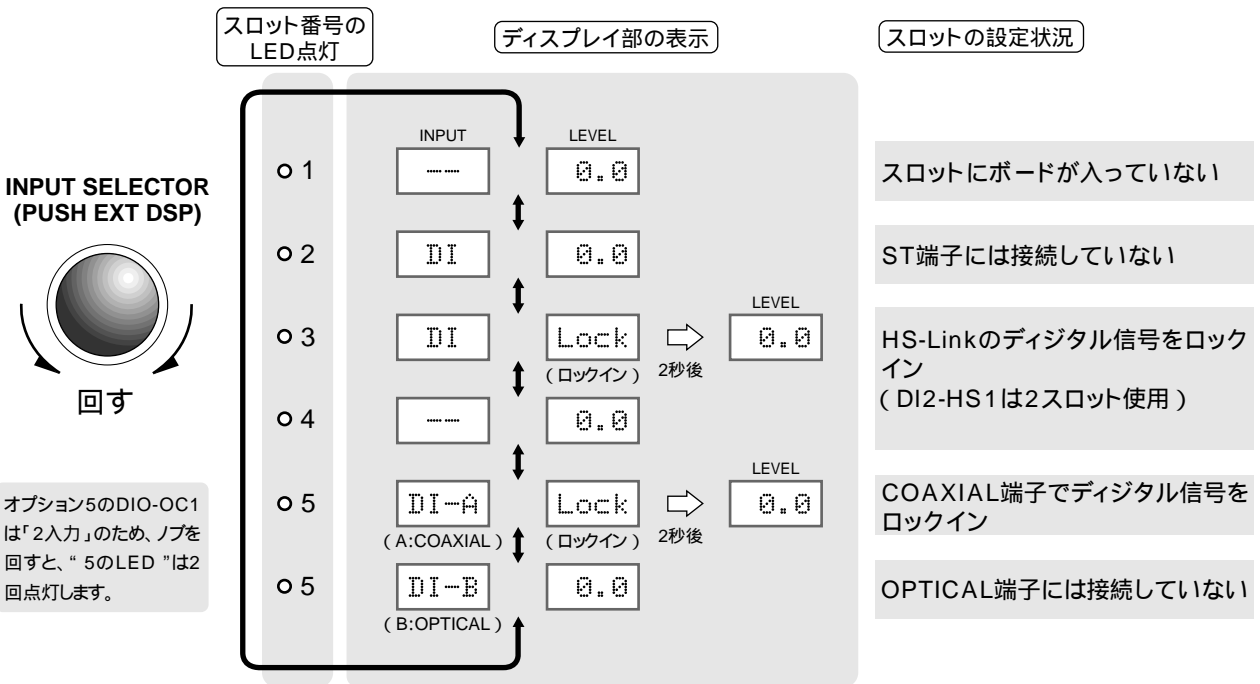
表示例

OPTION 1 : ボードが入っていない
 OPTION 2 : HPCオプション入・出力ボード[DIO-ST1]
 OPTION 3, 4 : HS-Link入力ボード[DI2-HS1]
 OPTION 5 : デジタル入・出力ボード[DIO-OC1]
 LEVELは、**[0.0]** } の場合

リモート
コマンダー では



各ボタンを押して、オプション・スロット番号を選択します。



INPUTディスプレイの表示例

アナログ入力のボード	[AI]
デジタル入力のボード	[DI]
2入力のボード (COAXIAL端子	[DI-A]
(OPTICAL端子	[DI-B]
2スロット使用するボードをOPTION 3, 4に挿入	3番のLEDが点灯し、[AI]または[DI]と表示
スロットにボードが入っていない場合	[--]
スロットに出力ボードが入っている場合	[--]

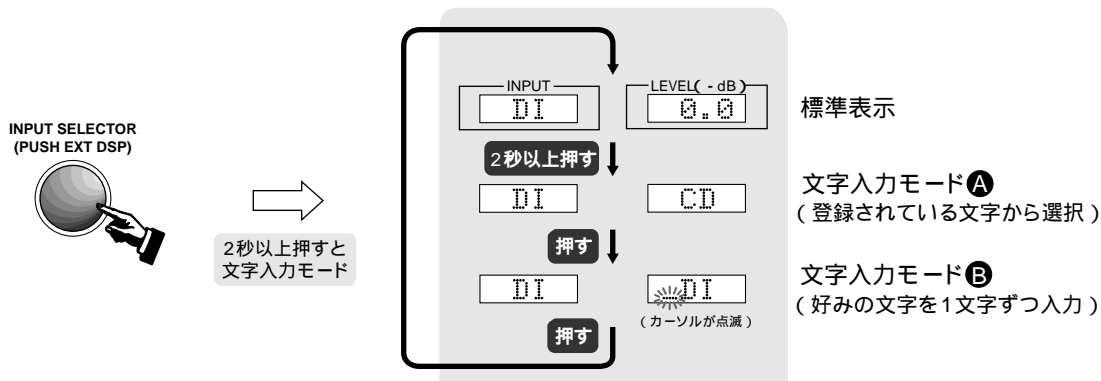
- * デジタル入力ボードは、接続していてもソース側の電源が入っていなければロックしません。
- * 入力信号にロックインした場合は、LEVELディスプレイに2秒間 [Lock] と表示します。
- * 入力表示は、好みの名称に変更することができます。(8, 9ページ参照)

文字入力モードの切替

4 INPUT SELECTOR

入力文字を変更する場合は、INPUT SELECTORを押して文字入力モードに切り替えます。

注意：最初の押す時間が2秒以下の場合、「EXT DSP」のON/OFFになります。



入力文字を変更するには

4 INPUT SELECTOR

5 OUTPUT LEVEL

INPUT SELECTORで文字入力モードに切り替えて、好みの入力文字に変更することができます。

例：DI から SACD に変更する。

登録されている名称を使用する場合：文字入力モード A

注意

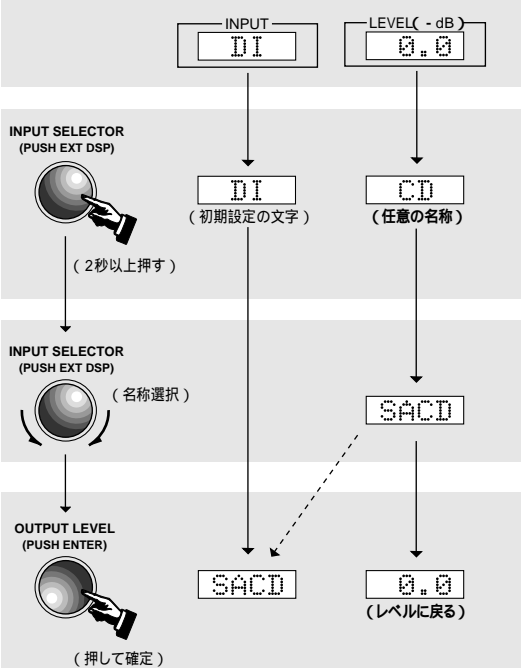
名称を変更した後、そのスロットに他のボードを入れ替えた場合、名称がそのまま残っています。この場合、新しい入力ボードの名称に変更してください。

① INPUTディスプレイに変更したい入力を表示します。

② INPUT SELECTORを2秒間以上押す(文字入力モードAになる) INPUTディスプレイは、初期設定の入力文字が表示します。

③ INPUT SELECTORを回して、LEVELディスプレイに希望の名称を選択して表示します。

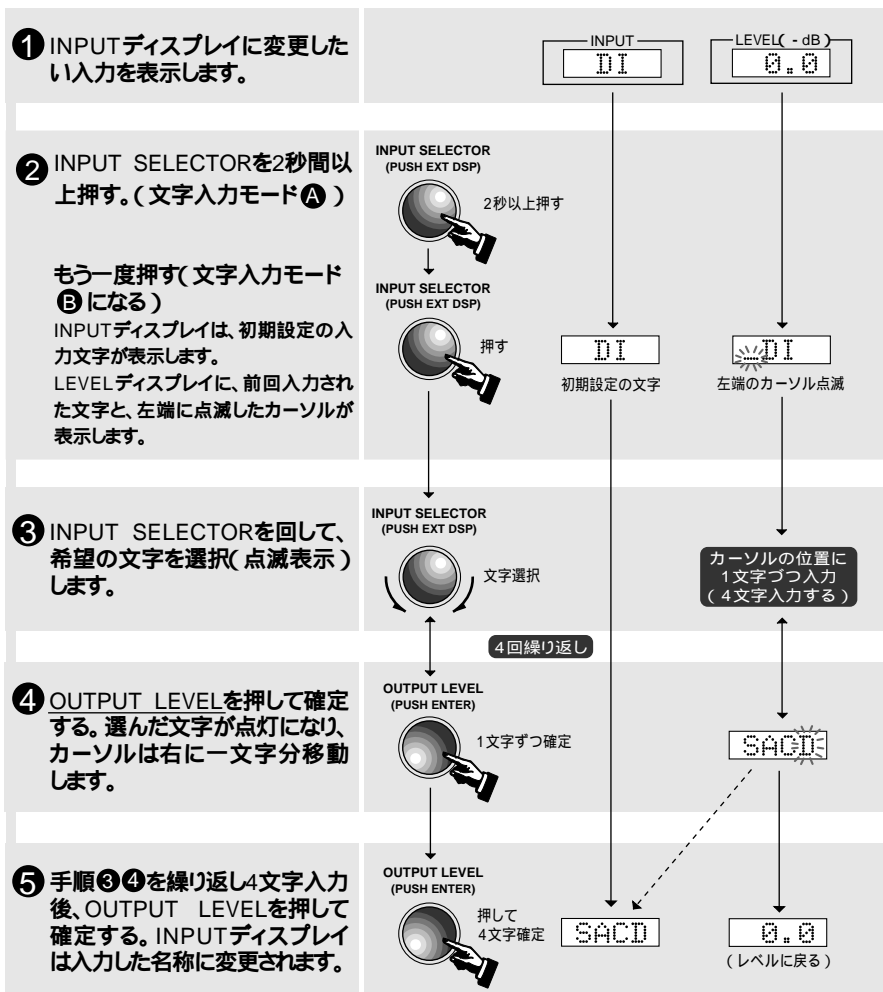
④ OUTPUT LEVELを押して確定する。INPUTディスプレイは希望の名称に変更されます。



登録されている名称

SACD、DVD、AD、CD、CS、DAT、MD、TAPE、DATなど及びそれらのナンバー付き

1文字ずつ入力する場合 : 文字入力モード B



1文字を消すときは
1文字分空けるには
空白(カーソルだけの点滅)を選択して、入力(OUTPUT LEVELを押します)。

カーソルを移動するには
そのままOUTPUT LEVELを押せば、1文字分ずつカーソルが右に移動します。

入力を途中でやめるときは
INPUT SELECTORを押す。①の状態に戻ります。

途中で文字を間違えた場合
(カーソルを左には移動できません)

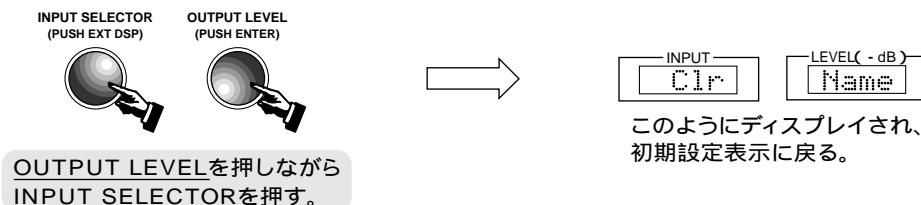
方法1: INPUT SELECTORを押してキャンセルし、最初から入れ直します。
方法2: そのままOUTPUT LEVELを押して行き、確定してしまいます。再度①に戻り、次の手順②の時、間違えた名称が表示されますので、カーソルを移動して間違えた文字を点滅させ、正しい文字を入力します。

表示できる文字・記号 - 96種類

アルファベットの大きい文字	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
アルファベットの小さい文字	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
数字	0123456789
記号	空白!#\$%&()*+,-./:;=?@[\] _ { } ~ ☼

変更した文字を初期設定に戻すには ④ INPUT SELECTOR
⑤ OUTPUT LEVEL

いままでに設定された文字入力は、全てキャンセルされ、初期設定表示に戻ります。

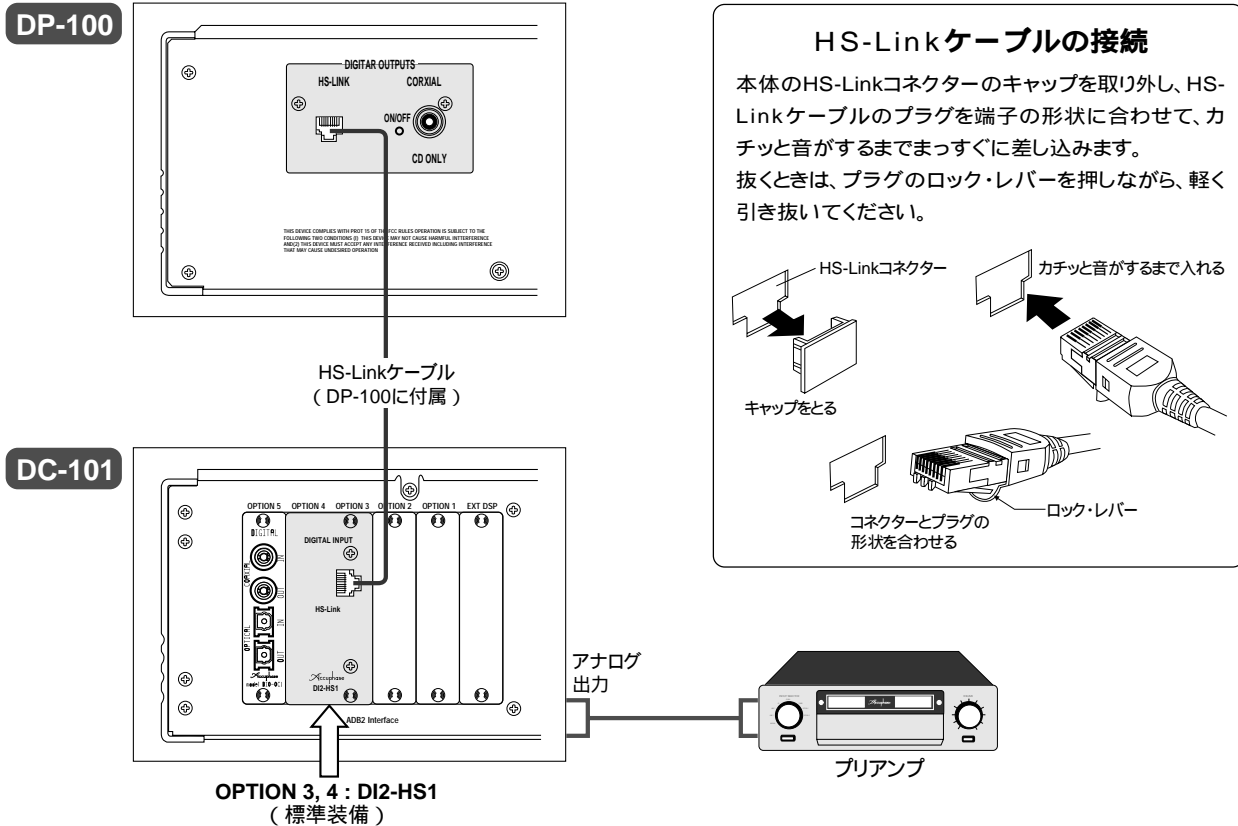


6. 接続方法

DP-100(SACD/CD)の演奏

DP-100から、HS-Linkケーブルで接続します。HS-Linkケーブル1本でSACDとCDを伝送します。

接続例 DP-100のDIGITAL OUTPUTS:HS-Link DC-101のDI2-HS1



接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- 1 本機と共にDP-100、プリアンプ、パワーアンプの電源を「ON」にします。
- 2 DC-101の入力セレクターで、接続した入力ポジションを選択(表示は **DI1**) します。
- 3 DP-100を演奏状態にして、プリアンプのVOLUMEを上げると演奏が聞こえてきます。

注意

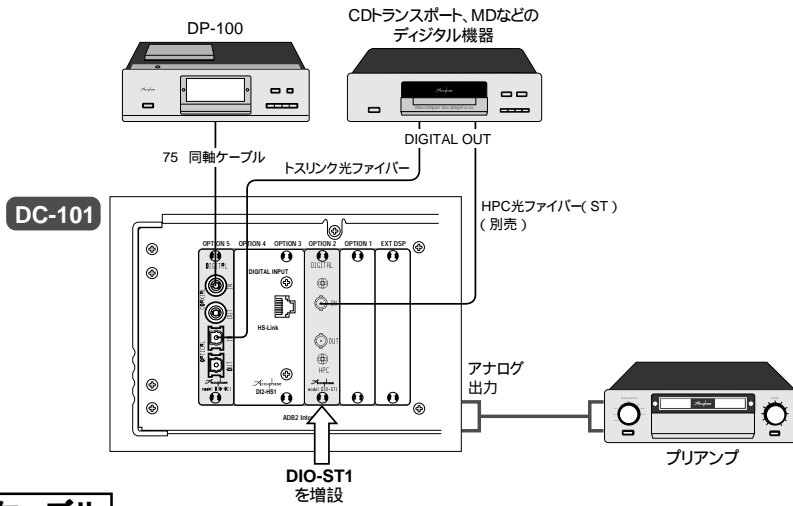
DP-100のHS-Linkコネクタからは、SACD/CD両方のデジタル信号が、DC-101に入力されます。ただしこの信号は、オプション・ボード(HS-Link以外)の各デジタル出力端子には出力されないため、デジタル録音はできません。
アナログ録音の場合は、プリアンプのREC端子を使用してください。
DP-100のCDデジタル録音をする場合は、COAXIAL端子からの信号を使用してください。

CDなどをデジタル入力で演奏

DP-100(CD同軸出力) CDトランスポート、MDなど、サンプリング周波数96kHzまでのソースをデジタルで入力します。

接続例

OPTION 5: DIO-OC1(標準装備)
 OPTION 2: DIO-ST1(増設)
 デジタル機器のDIGITAL OUT DC-101のオプションのINPUT



デジタル入力のあるオプション

デジタル入・出力ボード [DIO-OC1]
 HPCコアキシャル入力ボード [DI-BNC1]
 HPCオプティカル入・出力ボード [DIO-ST1]
 AES/EBU入・出力ボード [DIO-PRO1]

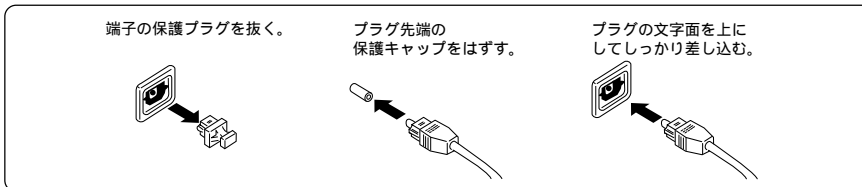
接続ケーブル

COAXIAL DIO-OC1

ピンプラグ付75 同軸ケーブルで接続してください。

OPTICAL DIO-OC1

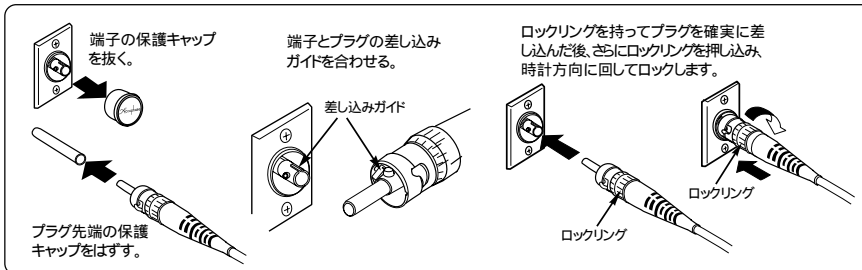
EIAJ規格のトスリンク光ファイバー接続用端子です。当社で、コアに石英ガラスを使用した光ファイバー(LG-10等)を別売しています。



HPC OPTICAL:ST DIO-ST1

STタイプのHPC光ファイバー(別売:HLG-10等)で接続してください。

STは、AT&T社の登録商標です。



HPC: BNC DI-BNC1

75 のBNCコネクター付同軸ケーブル(市販)で接続してください。

AES/EBU DIO-PRO1

AES/EBU規格に対応したXLRコネクターで接続してください。
 当社で、HPCバランス・ケーブル(HLC-10等)を別売しています。

⚠注意

光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上) 束ねておいてください。決して強く曲げないでください。もちろん、切断、再加工などはできません。

光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は天敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。

光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

DG-28のデジタル接続例—EXT DSPスロットの使用

デジタル・ヴォイシング・イコライザーDG-28を接続して、デジタル信号での音場補正が可能になります。
リアパネルEXT DSPオプション・スロットにデジタル入・出力ボードを増設します。
DG-28を接続後は、INPUT SELECTORを押して、DG-28の接続をON/OFFすることができます。

注意

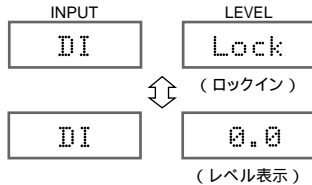
EXT DSP端子に機器が接続されていないとき、または信号をロックしないときは、INPUT SELECTORを押してONにすると、アナログ出力は途切れます。

ディスプレイの表示例

INPUT SELECTOR
(PUSH EXT DSP)



押すたびにDG-28接続のON/OFFが切り替わる
(Lock表示は5秒後に、通常接続時の表示に戻る)



LED点灯 DG-28の接続 ON



LED消灯 DG-28の接続 OFF

注意

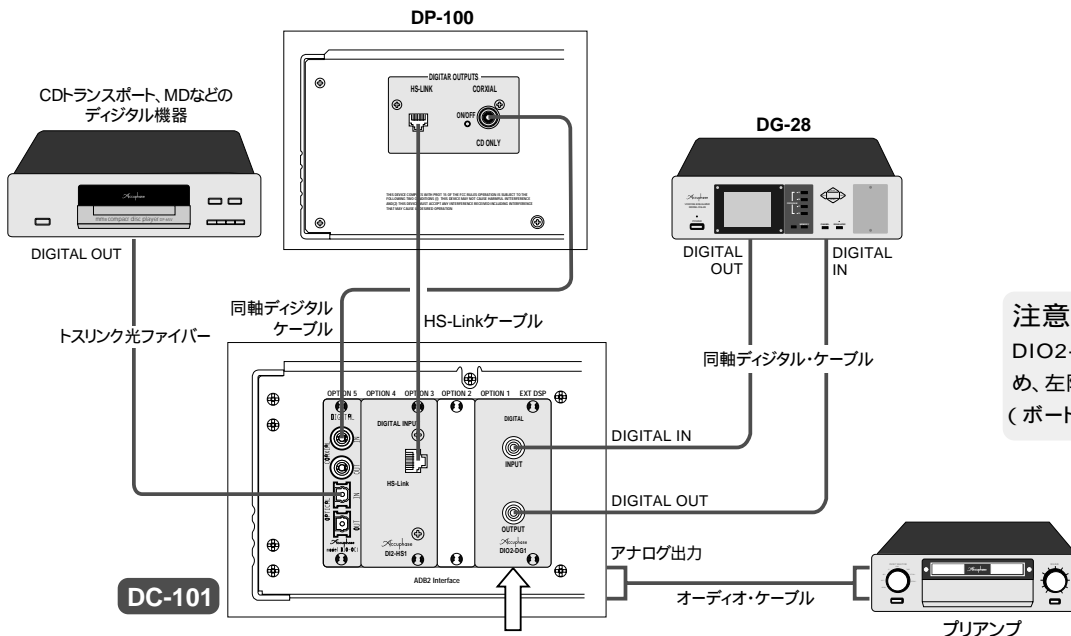
DG-28が接続されていないとき、スイッチを押してON(EXT DSPのLEDが点灯)になっているとロックインできません。

注意

接続例2でDIO-OC1を増設して、COAXIALとOPTICAL両方に接続した場合には、COAXIAL信号が優先します。

接続例1サンプリング周波数48kHzを超えるソースの演奏にも対応

- OPTION 5: DIO-OC1(標準装備)..... デジタル信号入力
 OPTION 3,4: DI2-HS1(標準装備)..... DP-100(SACD/CD)のデジタル信号入力
 EXT DSP: DIO2-DG1(増設)..... DG-28を接続



注意

DIO2-DG1は、2スロット使用するため、左隣のOPTION 1も使用します。
(ボードの詳細は18ページを参照)

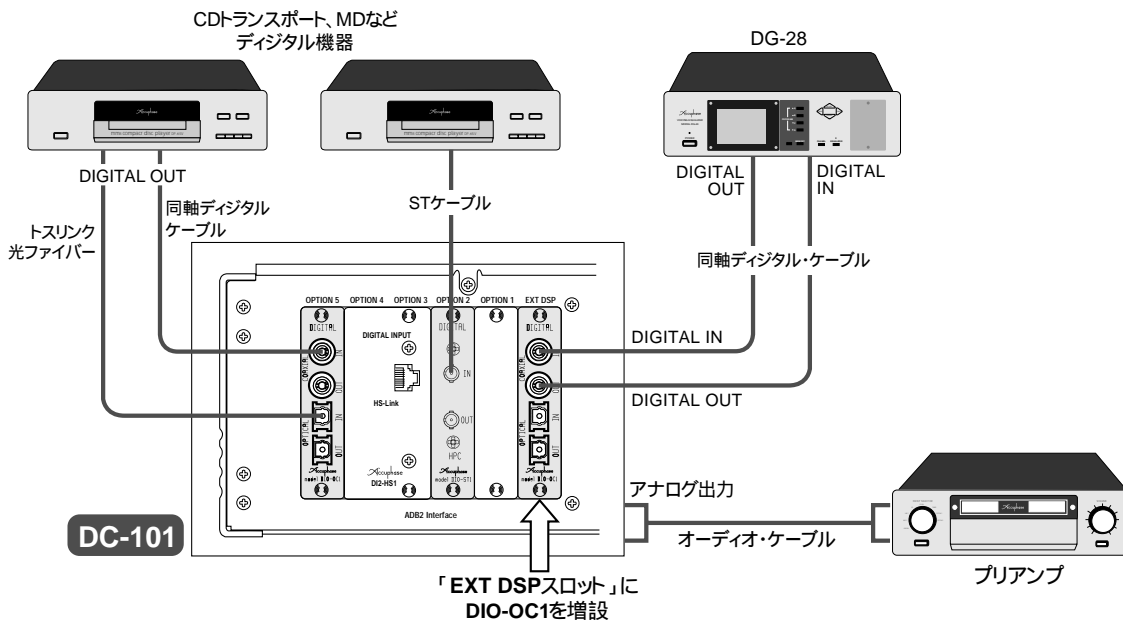
「EXT DSP」スロットに
DIO2-DG1を増設
(2スロット使用)

接続例2 サンプル周波数48kHzまでのソースを演奏する場合

OPTION 5: DIO-OC1(標準装備)..... デジタル信号入力
 OPTION 2: DIO-ST1(増設)..... デジタル信号入力
 EXT DSP: DIO-OC1(増設)..... DG-28を接続

デジタル入・出力のあるオプション

デジタル入・出力ボード [DIO-OC1]
 HPCオプティカル入・出力ボード [DIO-ST1]
 AES/EBU入・出力ボード [DIO-PRO1]



注意

「EXT DSPスロット」にDIO-ST1とDIO-PRO1増設時には、DG-28にも同じボードの増設が必要になります。
 DIO-PRO1は、2スロット使用するため、左隣のOPTION 1も使用します。

DG-28のアナログ接続例 — 広帯域ソースを演奏

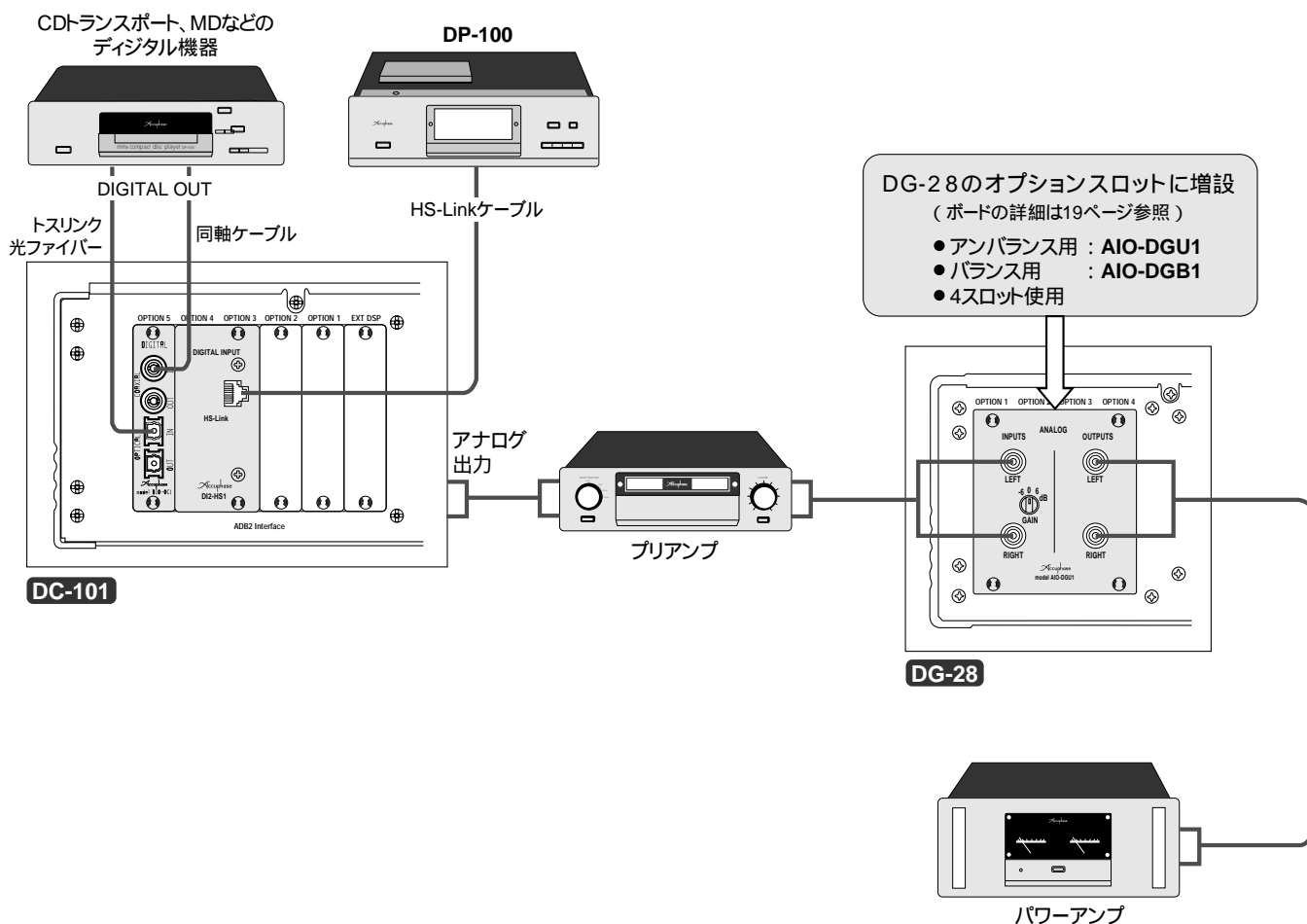
DG-28をアナログ接続して、サンプリング周波数48kHzを超える広帯域ソースを演奏する場合には、「DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード」を使用します。

注意

EXT DSPスロットにはボードを増設しませんから、EXT DSPの切替はOFFのままです。

接続例 DG-28のオプション・スロットに『DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード』を増設して、プリアンプとパワーアンプの間に接続します。

- OPTION 5: 標準装備DIO-OC1 デジタル信号入力
- OPTION 3,4: 標準装備DI2-HS1 SACD/CDデジタル信号入力
- EXT DSP: ボードを増設しません



デジタル・レコ - ダ - で録音・再生をする場合

デジタル・レコーダーを接続して、録音・再生ができます。

再生系が1系統ですから、録音中のモニターはできません。

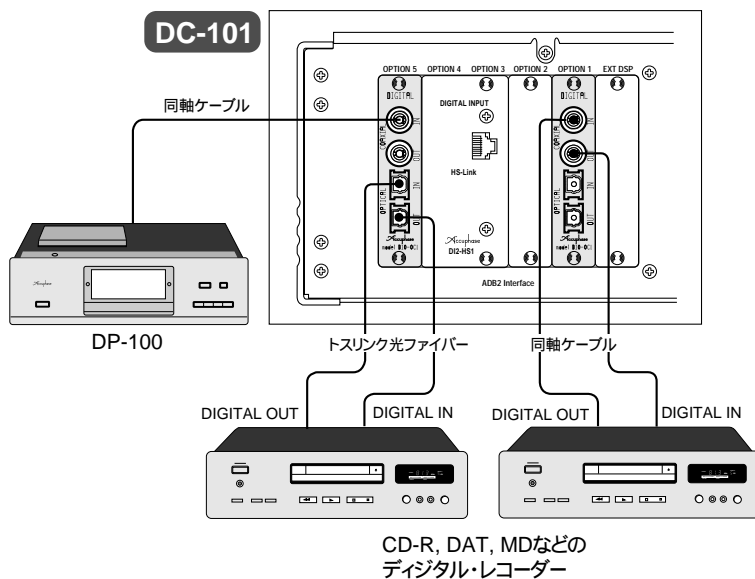
各オプションのOUTPUTS端子には、INPUT SELECTORで選択した(現在演奏している)ソースが出力され、録音可能になります。

ただし、HS-Linkで入力したSACD/CD信号は、各オプションのOUTPUT端子には出力されませんので、録音はできません。

接続例

オプション・スロットのDIGITAL " IN " 端子 レコーダーの " DIGITAL OUT "

オプション・スロットのDIGITAL " OUT " 端子 レコーダーの " DIGITAL IN "



OPTICAL : トスリンク光ファイバーで接続

COAXIAL : 75 同軸ケーブルで接続

再生 : デジタル入力のあるオプション

HPCコアキシャル入力ボード [DI-BNC1]

録音・再生 : デジタル入・出力のあるオプション

デジタル入・出力ボード [DIO-OC1]

HPCオプティカル入・出力ボード [DIO-ST1]

AES/EBU入・出力ボード [DIO-PRO1]

同一ボード内では、" IN " 端子の入力信号は " OUT " 端子に出力されません。

ただし、デジタル入・出力ボード(DIO-OC1)の場合、COAXIAL(同軸)に入力すれば、OPTICAL(光)に出力され、OPTICAL(光)に入力すれば、COAXIAL(同軸)に出力されます。

再生: プレイバック

レコーダーを再生状態にして、INPUT SELECTORで接続したソース(入力端子)に合わせれば再生音を聴くことができます。

録音: レコ - ディング

次の手順で操作をしてください。

録音したいプログラム・ソースをINPUT SELECTORで選択し、スピーカーから音を出して確認します。

この信号がオプション・ボードの各OUTPUT端子からレコーダーへ出力されます。

レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

本機のOUTPUT LEVELは、録音される音量には関係しません。

オプションのOUTPUT端子全てに同じ信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時録音も可能です。

注意

* デジタル録音の場合、SCMS(シリアルコピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDにデジタルで録音することはできません。

* デジタル録音の場合は、レコーダーの種類によって、録音側のサンプリング周波数を確認します。基本的には、ソース側とレコーダー側のサンプリング周波数が合わないとは録音できません。サンプリング周波数96kHz以上のソースは、レコーダーが対応していないと録音できません。MD、CD-Rへのデジタル録音は、サンプリング周波数が44.1kHzです。32kHzまたは48kHzのソースは、レコーダー側で44.1kHzに自動変換します。(一部の機種を除く)

DATは、ソース側の周波数を自動的に変換したり、追従して録音できる機種もありますので、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

7. オプション・ボード

DC-101のデジタル入力や録音端子は、オプション・ボードで対応します。このため、DC-101はSACD/DVD-Audioなどの新世代フォーマットに対応した、ADB 2インターフェース規格のオプション・スロットを装備しています。

HS-Link入力ボード(DI2-HS1)とデジタル入・出力ボード(DIO-OC1)が標準装備されていますが、この他にも豊富なオプションが用意されていますので、用途に応じて増設してください。

著作権保護のため、HS-Linkで入力したSACD/CD信号は、HS-Linkだけしかデジタル伝送できません。したがって増設したデジタル入・出力ボード(HS-Link以外)の各OUTPUT端子には、出力されず録音もできません。DP-100のCDデジタル信号を録音する場合は、同軸端子からの信号を使用してください。

DP-100(HS-Linkの信号)など48kHzを越える信号とDG-28との接続は、『DG-28用広帯域オプション入・出力ボード』を使用してください。

オプション・ボードを増設して、セレクターで選択すれば、入力が文字表示されます。

入力の表示は、お好みの入力名称に変更することができます。

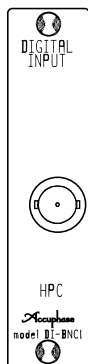
*表示価格は税別です。

オプション・ボードのサンプリング周波数対応状況

デジタル・ボードの種類	最大48kHz	最大96kHz	
HPCコアキシャル入力ボード DI-BNC1			
HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1			
デジタル入・出力ボード DIO-OC1			
AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1	IN	OUT	: 対応可 x : 対応不可
HS-Link入力ボード DI2-HS1	<ul style="list-style-type: none"> ●最大192kHz ●2.8224MHz/1bitのDSD信号 		
DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード DIO2-DG1	<ul style="list-style-type: none"> ●最大192kHz 		

HPCコアキシャル入力ボード DI-BNC1

希望小売価格 30,000円



75 ΩのBNCコネクター付同軸ケーブルを接続します。

内部は、オプティコアイソレーターによって入力と波形成形回路を完全分離しています。

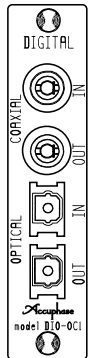
保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

デジタル入力 : 0.5Vp-p 75 Ω

デジタル入・出力ボード DIO-OC1

希望小売価格 40,000円



同軸、光ファイバーの入・出力端子を装備、2系統の入・出力信号を接続することができます。

*DC-101のOPTION 5に標準装備されています。

接続 “ IN ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”
“ OUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

COAXIAL:75 同軸ケーブルで接続
OPTICAL:トスリンク光ファイバーで接続

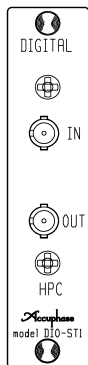
保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

デジタル入・出力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75
OPTICAL 光入力 -27 ~ -15dBm
光出力 -21 ~ -15dBm

HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1

希望小売価格 50,000円



HPCオプティカル入・出力端子で、STタイプの光リンク・コネクタを装備している機器と接続します。

この端子は、HP社の150M bps伝送能力を持つ超高速リンクを使用しています。

接続 “ IN ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”
“ OUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

*STは、AT&T社の登録商標です。

*HPC光ファイバー(HLG-10等)は、当社で別売しています。

保証特性、適合規格

入・出力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

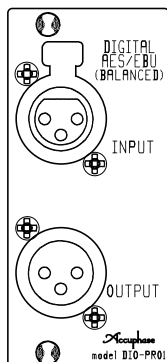
コネクタ形状 : STタイプ

入力レベル : 光入力 -30 ~ -10dBm

出力レベル : 光出力 -19 ~ -14dBm

AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1

希望小売価格 60,000円



AES/EBU(業務用デジタル規格)に対応した、入・出力XLRコネクタを装備しています。この規格のコネクタを装備しているデジタル機器の入力やデジタル・レコーダを接続、録音・再生することができます。

接続 “ INPUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”
“ OUTPUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

*HPCバランス・ケーブル(HLC-10等)は、当社で別売しています。

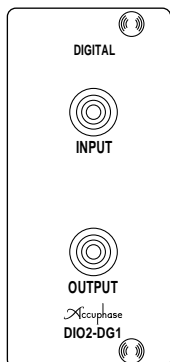
保証性能、適合規格

入出力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

デジタル入力 : 0.5V p-p min 250

デジタル出力 : 3.0V p-p 110

DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード DIO2-DG1 希望小売価格 100,000円



SACDなどサンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号に対応し、DG-28をデジタル接続して音場補正することができます。

DC-101, DC-330, DP-75Vの『EXT DSP』スロットに増設して、DG-28をデジタル接続します。

*2スロット使用するため、左隣のOPTION 1が空いていないと使用できません。

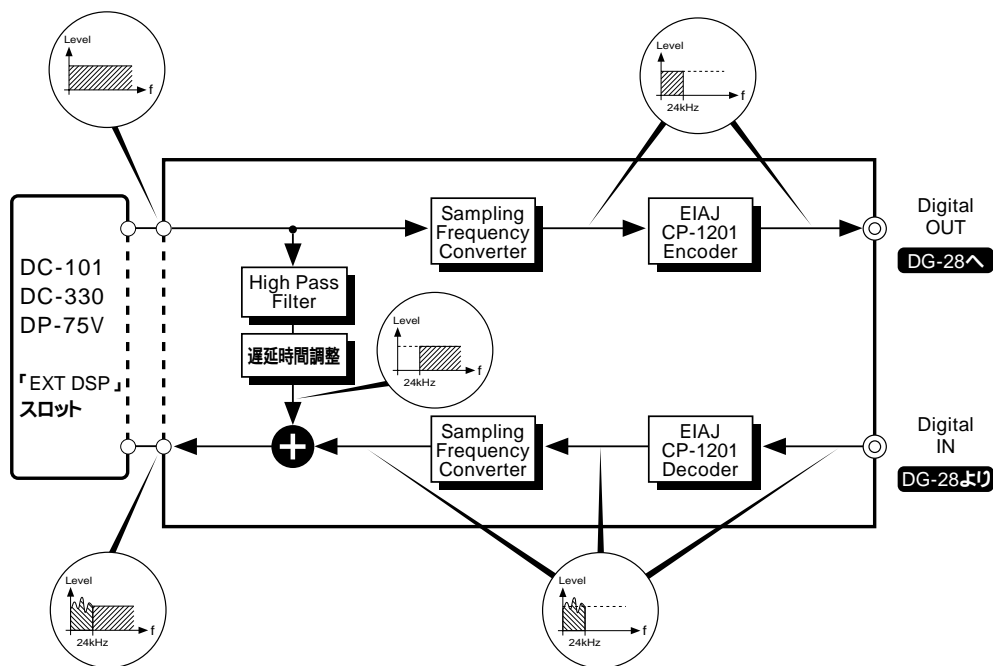
*75 同軸デジタル・ケーブルで接続します。

接続例は12ページ参照

DIO2-DG1に入った広帯域ハイサンプリング・デジタル信号は、サンプリング周波数 48kHzまたは44.1kHz に変換して、24kHz または22.05kHz までの可聴帯域成分だけをDG-28に送りイコライジングします。24kHz (または22.05kHz) 以上の成分は、ハイパス・フィルターによってDG-28に送らずにバイパスします。DG-28でイコライジング処理した信号と、バイパスした信号をボード内で合成して、DC-330, DC-101, DP-75V等にデジタル信号で渡します。

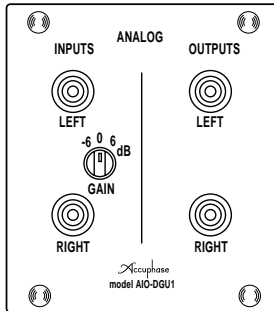
注意

Digital OUT端子の信号はCD-R, MD, DATなどの録音用として使用できません。



DIO2-DG1のブロック・ダイアグラム

DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード AIO-DGU1 希望小売価格 90,000円

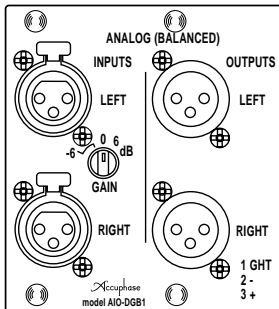


DG-28をアナログ接続で、サンプリング周波数48kHzを超えるソースを演奏する
場合に使用します。

DG-28のオプション・スロットに増設(4スロット使用)します。
アンバランス接続用です。

RCAピンジャック付オーディオ・ケーブル
別売:SL-15G等

DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード AIO-DGB1 希望小売価格 100,000円



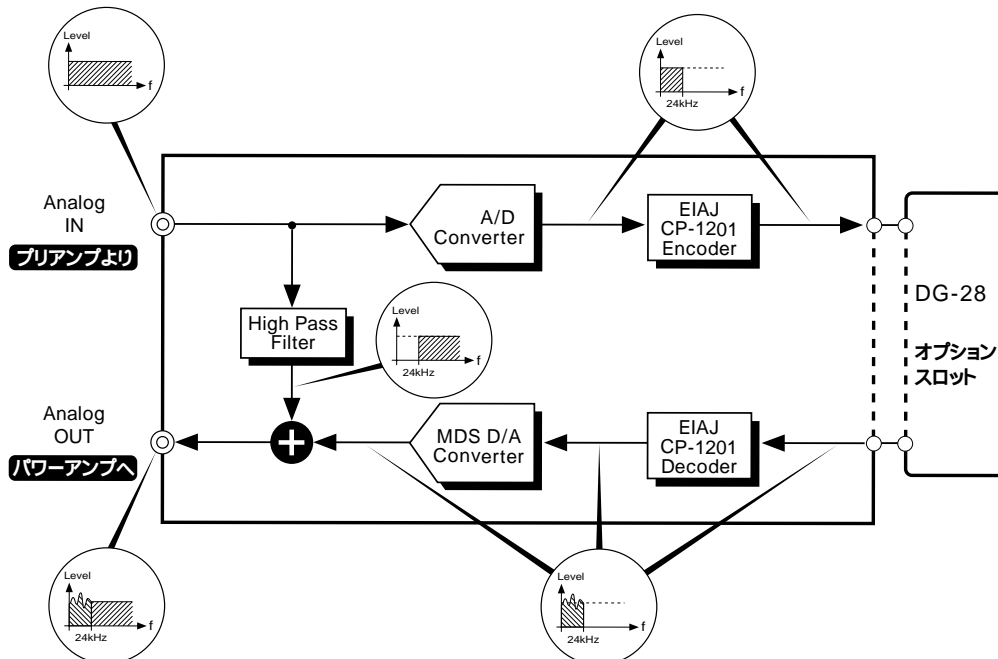
DG-28をアナログ接続で、サンプリング周波数48kHzを超えるソースを演奏する
場合に使用します。

DG-28のオプション・スロットに増設(4スロット使用)します。
バランス接続用です。

バランス用オーディオ・ケーブル
別売:SLC-15等

接続例は14ページ参照

プリアンプからAIO-DGU1/AIO-DGB1に入力したアナログ信号は、高精度24bit A/Dコンバーターでサンプリング周波数48kHzのデジタル信号に変換され、DG-28に送りイコライジングします。24kHz以上のアナログ成分は、ハイパス・フィルターによってDG-28に送らずにバイパスします。DG-28でイコライジング処理した信号は、MDS方式高精度24bitD/Aコンバーターでアナログ信号に変換され、24kHz以上のバイパスした信号とボード内で合成して、パワーアンプに出力します。



AIO-DGU1、AIO-DGB1のブロック・ダイアグラム

オプションの取り付け方法

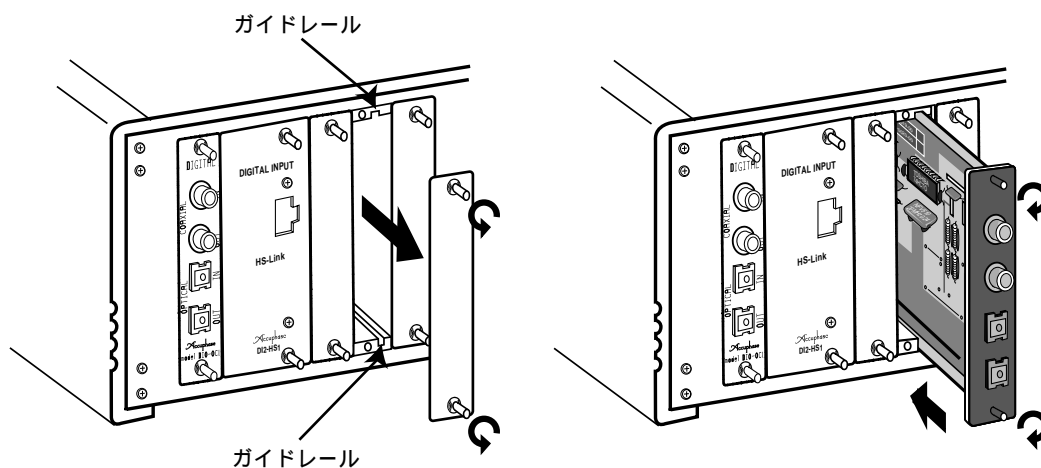
本体の電源スイッチをOFFにします。

リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。

2スロット使用するボードの場合は、2枚はずします。

スロット内の上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)

上下のネジ2カ所で確実に固定します。



⚠ 注意

オプションを抜き差しするときは、必ずDC-101の電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま抜き差ししますと、故障の原因となります。

部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らないでください。静電気で回路が故障する原因となります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。

オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締めてください。締めつけが不十分ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり故障の原因となります。

8. 保証特性

[保証特性はEIAJ測定法CP-2402に準ずる]

デジタル入力	
HS-Link	コネクタ形状 : RJ-45 適合ケーブル : HS-Link専用ケーブル
COAXIAL	フォーマット : EIAJ CP-1201/AES-3準拠
OPTICAL	フォーマット : EIAJ CP-1201準拠
サンプリング周波数	32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz (各16~24bit 2ch PCM)
HS-Linkのみ対応	176.4kHz、192kHz(各16~24bit 2ch PCM) 2.8224MHz(1bit 2ch DSD)
デジタル出力	
COAXIAL	フォーマット : EIAJ CP-1201準拠
OPTICAL	フォーマット : EIAJ CP-1201準拠
D/Aコンバーター	24ビット MDS方式
周波数特性	0.5~50,000Hz +0、-3dB
全高調波ひずみ率	0.0008%(20~20,000Hz間)
S/N	116dB
ダイナミックレンジ	112dB(24bit入力、LPF:OFF)
チャンネル・セパレーション	108dB(20~20,000Hz)
出力電圧・出力インピーダンス	
BALANCED	: 2.5V 50 平衡 XLRタイプ
UNBALANCED	: 2.5V 50 RCAフォノジャック
出力レベル・コントロール	-、-84~0dB(デジタル方式)
電 源	AC100V 50/60Hz
消費電力	24W
最大外形寸法	幅475mm × 高さ150mm × 奥行398mm
質 量	20.8kg

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

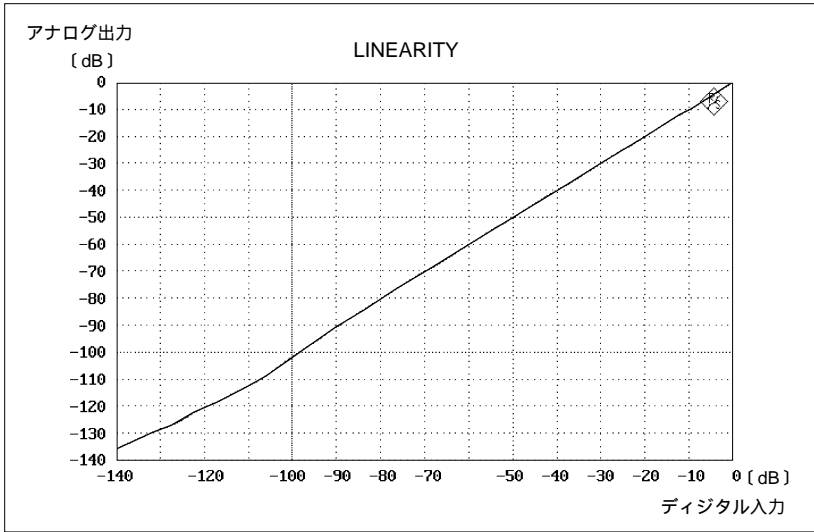
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

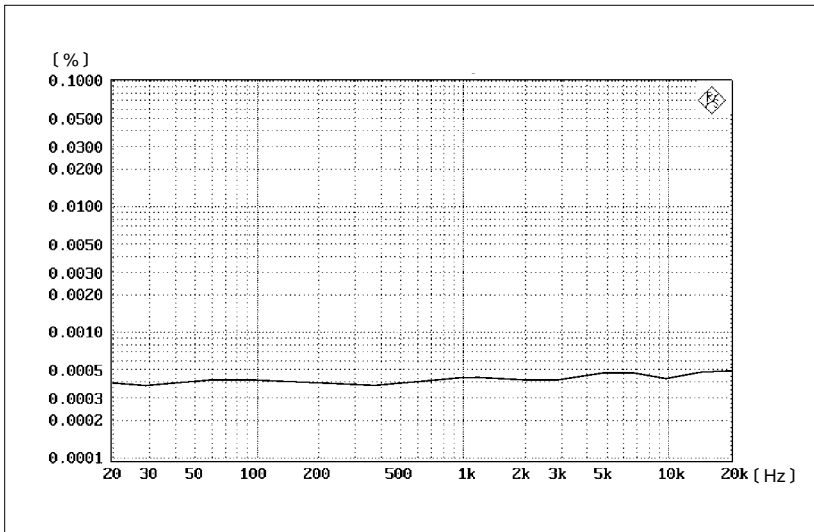
お手入れ

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。入出力端子などに接点保護剤などを使用しますと、樹脂部が経年変化で破損する場合がありますので使用しないでください。

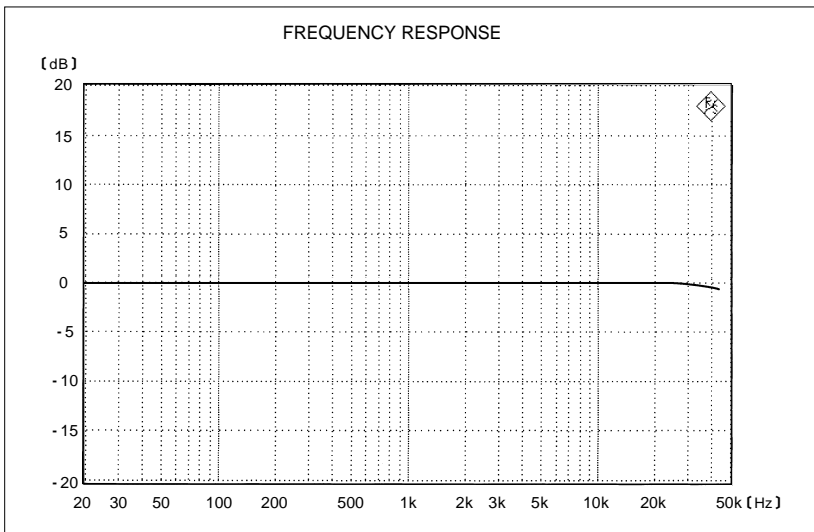
9. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力/アナログ出力)

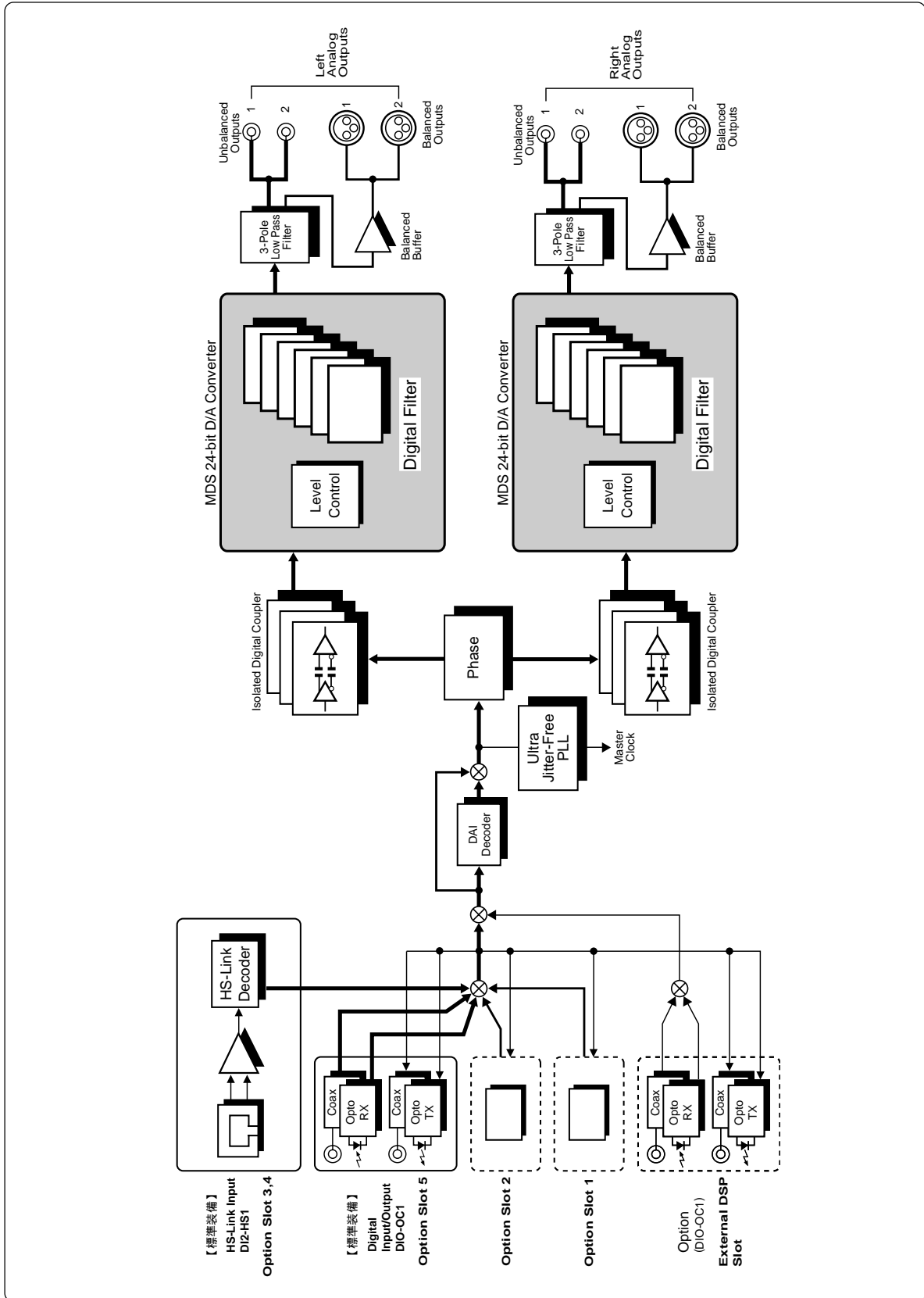


全高調波ひずみ率(雑音を含む)/
周波数特性



周波数特性

10. ブロック・ダイアグラム



11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

⚠ 注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切ってください。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

音がでない。またはレベルが低い

DG-28が使われていないとき、入力セレクターを押してEXT DSPがON(LEDが点灯)になっていると、ロックインできないため音がでません。
ソース側機器やアンプの電源は入っていますか。
入力セレクターを確認します。
接続コードは正しく接続されていますか。
本機のOUTPUT LEVELで出力レベルを確認します。
選択した入力のサンプリング周波数をロックインしていますか。

音が途切れたり雑音が出る

接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
トスリンク光ファイバーはEIAJ規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側から音が出ない

アナログ出力コードを左右入れ替えます。
同じ側から音がでない.....アンプ側に原因が考えられます。
左右逆になる.....本機に原因が考えられます。

外部接続機器(デジタル)の出力がない

周波数ロックをしていますか。
入力ソースのサンプリング周波数とオプション・ボードの対応周波数を確認してください。
光ファイバー、同軸などそれぞれ接続したケーブルをお確かめください。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。
新しい電池に交換してみましょう。
受光部付近に障害物はありませんか。

12. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。

保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。

保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。

オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。

補修部品の保有期間は通産省指導により、製造終了後最低8年間となっています。

使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。

本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。

AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお願いいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045 901 2771(代表)
FAX 045 901 8995

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われる場合には”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

モデル名、シリアル番号	ご住所、氏名、電話番号
ご購入日、ご購入店	故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。

Notes:

A series of horizontal dashed lines for taking notes.



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 - 14 - 10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)